

2021 年度入試状況分析【私立大】

※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎増減が目立った大学

□大都市部の難関大で目立つ減少

私立大 525 大学の一般選抜の志願者数集計において、志願者数の増加数が 1,000 人以上の大学、減少数が 7,000 人以上の大学について見ていきます。

増加している大学では、増加数が最も多かったのは千葉工業大の 5,438 人(105)、次いで立教大の 4,167 人(107)、龍谷大が 3,098 人(106)で、3,000 人以上の増加は 3 大学に留まり、1,000 人以上の増加まで含めても 8 大学です。前年度は私立大延べ志願者数が 14 年ぶりに減少しましたが、それでも 3,000 人以上増加の大学が 10 大学あったことから、2021 年度入試の私立大全体の志願者数減少が大きかったことが反映した結果となりました。千葉工業大は、理・工系への堅調な人気に支えられる中でも、一般方式は 6,811 人(89)の減少でしたが、コロナ禍による経済環境の悪化への対策として共通テスト利用方式の受験料を無料または減免にしたことで、共通テスト利用方式(129)が全学部で大幅増加しました。立教大は、全学部日程の試験日を増加させた一般方式が 4,282 人(111)で増加、龍谷大は方式拡大(利用科目数、日程)で受験機会が増加した共通テスト利用方式が 4,492 人(142)の大幅増加でした。聖学院大(172)は共通テスト利用方式、神戸女子大(129)では中期日程を新規導入しました。2021 年度の入試改革やコロナ禍への不安が長引く中、受験生目線で受験機会を増やした大学での増加が目立ちました。また、大阪産業大(111)は一般方式で新たに指定教科重視方式を導入したことに加え、コロナ禍の経済環境悪化への対策として受験料を一律減額にした効果で増加、駒澤大(104)は前年度の 41%減少という大幅減少の反動でやや増加しました。

7,000 人以上減少した大学は、前年度の 7 大学から 20 大学へ増加しました。大学別では、減少率の大きかった順に青山学院大(69)、京都産業大(73)、立命館大(81)、日本大(86)、東京理科大(87)、早稲田大(88)、法政大(88)、東洋大(88)、関西大(91)、中央大(91)、近畿大(93)といった首都圏、関西圏の難関大を中心に減少しました。これは、コロナ禍の中で地方から都市部への移動の流れが止まり都市部の私立大への出願が減少、これに景気悪化もあって、確実な進学先として地元国公立大(特に比較的難易度の低い公立大)への志向が高まったことが影響しました。

なお、減少数が多かった大学では、立命館大(81)が約 2 万人、青山学院大(69)が約 1.8 万人とこの東西の 2 大学が突出しました。

2021 年度入試状況分析【私立大】

[1,000 人以上増加した大学]

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2021年度	2020年度	
千葉工業大	+5,438	105	108,707	103,269	コロナ禍における経済環境悪化への対策として、受験料を無料または減免にした共通テスト利用方式(129)が大幅増加。一般方式(89)は減少。志願者数は2年連続10万人を上回った。
立教大	+4,167	107	65,475	61,308	大学全体では3年ぶりに増加。一般方式(111)は、全学部日程の試験日増加による受験機会の増加が影響。共通テスト利用方式(99)は微減だが3年連続減少。
龍谷大	+3,098	106	56,379	53,281	共通テスト利用方式の科目数増加や新規方式導入により、共通テスト利用方式(142)は大幅増加。一方で、一般方式(97)はやや減少で2年連続減少。
大和大	+1,622	119	10,321	8,699	社会(社会)を新設、志願者数は1,632人。政治経済(164)は大幅増加。他学部は減少。
聖学院大	+1,278	172	3,056	1,778	共通テスト利用方式を新規導入。5学科全て併願可能、同金額。大学独自試験との併願すると検定料を更に割引。共通テスト利用方式志願者数は827人、一般方式(125)も451人の大幅増加。
大阪産業大	+1,136	111	11,449	10,313	2017年度の改組以降5年連続増加。一般方式で新たに指定教科重視方式を導入したことや、コロナ禍における経済環境悪化への対策として、受験料を一律減額にしたことが影響。
駒澤大	+1,077	104	29,902	28,825	大学全体(104)で、前年度大幅減少の反動でやや増加。特に、共通テスト利用方式(122)は、前年度60%近い大幅減少の反動で大幅増加し、8学科中7学科が増加。
神戸女子大	+1,019	129	4,543	3,524	中期日程入試を新規導入、志願者数は1,070人。大学全体では、一般方式(150)は、2年連続減少の反動で大幅増加。共通テスト利用方式(85)は、2年連続大幅減少。

2021 年度入試状況分析【私立大】

[7,000人以上減少した大学]

大学	志願者数増減		志願者数		コメント
	増減数	指数	2021年度	2020年度	
立命館大	-20,157	81	83,512	103,669	前年度増加の反動やコロナ禍による1人あたりの出願校数減少の影響を受け、大幅減少。一般方式(84)、共通テスト利用方式(75)のいずれも大幅減少。
青山学院大	-17,699	69	40,123	57,822	大きな入試変更を行わなかった経済(103)のみがやや増加で、他学部は減少。一般方式から多くの学部で共通テスト併用方式となった個別学部日程は(57)の大幅減少。
日本大	-15,954	86	97,948	113,902	大学全体(86)では減少で、志願者数10万人を下回った。既卒受験生の減少やコロナ禍による1人あたりの出願校数減少が影響。
京都産業大	-15,295	73	40,925	56,220	大学全体(73)では6年ぶりの大幅減少。志願者数は2018年度から続いた5万人台を大きく下回る結果。文化(89)が減少、他の9学部はすべて大幅減少。
早稲田大	-12,917	88	91,659	104,576	1972年度以来の志願者数が10万人を下回った。コロナ禍による情報発信が難しかったことで、入試方式を変更した学部についての理解が深まらなかったことも影響。
法政大	-12,672	88	90,956	103,628	一般方式(92)は減少、共通テスト利用方式は(78)で2年連続大幅減少。学部別では、15学部中12学部で減少。併願校数の絞り込みの影響を強く受けた。
神奈川大	-12,221	66	24,251	36,472	コロナ禍対応のため給費生試験を2月実施とした影響で、全ての学部で大幅減少。特に前年度新設の国際日本(47)は、コロナ禍による系統への人気低下の影響が大きく半減以下の減少、法(53)も半減近い減少。
東海大	-11,969	79	44,316	56,285	基盤工(112)を除く他18学部すべてで減少。特に文(62)、国際文化(63)、教養(69)で文系の大幅減少が目立った。
東洋大	-11,968	88	89,808	101,776	前年度まで4年連続10万人を上回っていた志願者数は、9万人を下回った。コロナ禍による系統への人気低下で国際観光(66)は30%以上の減少。併願校数の絞り込みの影響を強く受けた。
近畿大	-9,490	93	135,830	145,320	理系8学部合計(88)の減少、一般方式(87)の減少が影響。共通テスト利用方式(115)は新規方式実施の影響で大幅増加、一般方式(87)は減少で対照的な結果。併願校数の絞り込みの影響を強く受けた。
帝京大	-8,932	77	29,357	38,289	大学全体(77)では5年ぶりに減少。福岡医療技術(106)を除く、9学部で減少。教育(93)を除く8学部は大幅減少。特に、共通テスト利用方式(64)は30%を超える大幅減少で、経済(46)、法(48)は半減以下。
国士舘大	-8,746	60	12,924	21,670	全ての学部で大幅減少。特に政経(経済)(40)は一般方式(41)、共通テスト利用方式(37)で激減。
関西大	-8,114	91	79,511	87,625	一般方式(85)の大幅減少が影響して、大学全体(91)は2年連続の減少。共通テスト利用方式の(社会安全)(45)が半減以下の減少。
福岡大	-8,040	85	44,072	52,112	大学全体(85)では3年ぶりの減少。医(医)(68)は、コロナ禍でI期実施をIII期実施に変更した影響で、共通テスト方式が(11)で90%に近い激減。
中央大	-7,942	91	78,534	86,476	一般方式(93)、共通テスト利用方式(87)ともに2年連続減少。特に(総合政策)(63)の大幅減少が影響。
中京大	-7,303	81	30,925	38,228	大学全体(81)では2年ぶりの減少。スポーツ科学(131)のみ大幅増加だが、新設学科を除くとスポーツ科学(73)も大幅減少。
阪南大	-7,193	48	6,663	13,856	大学全体(48)では、半減以下の減少で2年連続減少。コロナ禍による系統への人気低下で、全ての学部で半減以下の減少。
東京農業大	-7,141	76	22,187	29,328	大学全体(76)では、大幅減少で4年連続の減少。特に、国際食糧情報(65)、生物産業(70)が30%以上の減少。
名古屋学院大	-7,073	57	9,284	16,357	大学全体(57)では、〈一般・中期〉〈共テ・中期〉を廃止した影響もあって、40%を超える減少。6年ぶりの減少で、2017年度以来となる1万人を下回った。方式別では、一般方式(67)、共通テスト利用方式(37)。
東京理科大	-7,054	87	49,301	56,355	先進工(128)を除く他の6学部が減少で、方式別では4方式すべてで減少。共通テスト利用方式の経営(経営)(38)は2年連続半減以下の激減。